

## 研究テーマ：「話す」技能を向上させるための指導と工夫

所属 高知若草養護学校

氏名 小松 文

RG SH1

1 研究の背景：対象となる学習グループである 2 年 コースには、女子 1 名が在籍している。主な障害名は側わん症で身体障害者手帳を取得している。努力家で他教科の課題等の提出状況もよく、家庭学習の習慣も定着しつつある。国立吉備職業リハビリテーション学校進学を目指して基礎学力の基盤作りに取り組んでいる。オーラル・コミュニケーション A の授業では、単語レベルだが積極的に英語で話しかけてくれるので雰囲気はとてもよい。このような生徒の前向きな気持ちを大切に育て、本人が伸ばしたいとする「話す」技能を向上させるためリサーチを開始した。

2 リサーチクエスチョン：身近な事柄について基礎的な単語（英検 3 級程度）を用いて、ある程度文章で話せるようになるにはどのようにすればよいのか。

## 3 予備調査

予備調査 1 授業観察の結果：[Oral English A (2 単位)] 夢について、想いは自由に大きく英語で語らせた。言語材料は、疑問詞 What~?、仮定法 If~, what~?を用いてのたずね方を中心に言い、その答え方として would like to、want to の表現を学習する。1 対 1 の授業なので、主な言語活動は教師とのペアのインタビュー活動である。重要表現のところでは、説明に日本語の使用が目立ちもう少し工夫が必要だと思われる。Warm-Up のセクションでは、英文を聞いてどの語句が含まれているか聞き取る問題だったが、8 つとも名詞であったので、1 度英文を聞かせただけで全問正解だった。時間的に余裕ができたので、8 つの英文のうち 5 つをディクテーションさせた。ゆっくりと、3 回ずつ英文を聞かせた結果、Lawyer と scientist の綴りの間違いはあったものの、正確に聞き取り書けていた。

予備調査 2 英語力を示すデータ：各課ごとに行った新出単語の英訳や基本文の dictation 等の小テストでは、10 問中 6 ~ 10 の正解があった。正しく書けなかった単語も本人が気をつけ綴りを覚えている。定期テストは中間 76 点、期末 86 点であった。和文英訳が苦手で、分量が多いととにかく丸暗記している面もあるようで、小さなミスが目立つ。

予備調査 3 アンケート、授業評価の結果：口頭によるアンケート調査

予備調査 4 生徒の自己評価：学期に 2 回程度、テストや日頃の授業に関して生徒の意見や相談を聞く時間を設けた。

予備調査 5 文献研究 佐野正之「アクション・リサーチでの授業改善」『STEP 英語情報』

2002 5・6 ~ 2003 3・4 日本英語検定協会

## 4 仮説の設定

仮説 1 身近な事柄について、単語や熟語を生徒個人の使用頻度に応じて整理させると、語彙が増え、スピーキングの幅も広がるのではないかと。

仮説 2 家庭学習の方法として、生徒の目標である英検 3 級の問題集を用意し、基本的な phrase や sentence を音読させるとスピーキングの力も向上するのではないかと。

仮説 3 実際に英検 3 級を受験させる。その対策として、ある程度まとまった量の自己学習をさせることで、満足感や達成感、自信につなげることはできないだろうか。

5 計画の実践：仮説 1 と 2 に関しては、英検 3 級程度の単語や表現のプリント等を用いて、表現

を口頭で言わせ、間違っただ所の復唱、筆記テストで単語の綴りの確認をした。また、間違っただ表現や単語を一緒にリストアップし、生活の中でよく使われる単語や表現を本人がノートにまとめた。そうしていくうちに、会話活動で覚えた表現も使われはじめた。まだまだ、単語で答えたりする場面が多いが、積極的に英語で発言することも多くなってきた。

仮説 3 に関して、1 次試験を受験した直後に試験について振り返らせ、感想を聞くと率直な意見が出てきた。達成感とまでは行かないかもしれないが、できる限りやったのだという充足感も見えてきた。2 次試験対策では、日常会話の活動や面接形式の練習、速読即答のポイントをまとめた。

6 実践の結果：本試験では、1 次合格、2 次不合格という結果が出たが、実践を重ねていくうちに成績も伸び、その自己学習量（平均学習時間：寄宿舍 2.5 時間、放課後 1.25 時間）からも学習に対する意欲や熱心な気持ちが伝わってくる。リスニング力については、絵つきの会話文 20 題と一般文 10 題の 30 題の問題で取り組んだ。

	1 回目	2 回目	3 回目	1 次試験
会話文	12	15	16	16
一般文	3	5	6	4
合 計	15	20	22	20

9 月前半に行った第 1 回目では、問題文の印刷されていないものに苦戦したようだが、9 月末の 2 回目には点数を伸ばし本番直前の 3 回目もわずかながら伸びを見せている。しかし、一般文の点数が横ばい状態で、語彙量の不足と問題処理能力、聴解力が今後の課題である。

速読力について、当初は、100 語程度の英文を読んで 5 題の Q&A を答え終わると 3 分以上かかってしまった。最終的に 2 分近くまで縮めることができたが、wpm の伸びを目指し指導法の勉強を深める必要もあるだろう。

話す力	リスニング	速読力	語彙力	書く力
少しは力がついた	力がついた	少しは力がついた	力がついた	少しは力がついた

生徒の意識については、7 月と 12 月にアンケート調査を行った。12 月のものは、どの設問に対しても具体的で前向きな答えが返ってきた。

7 結果の検証：リーディング力や速読力の向上にはまだ指導法の研究が必要であるが、1 対 1 の授業であるから時間的な融通も利き、仮説 2 の家庭学習で行おうとした活動も一部授業で行え、スピーキングの力だけでなく、総合的な英語力の伸びにもつながった。語句や表現を少しずつ毎時間確認、テストして積み重ねていったことは結果的に会話活動の中に生かされていったし、弱点を整理する作業と一緒にできたことはその共通理解にもなった。まだまだ文法的に課題はあるものの、文章を使って会話をするよう意識付けできたことで僅かながらリサーチクエスチョンを達成できたように感じた。

8 成果と今後の課題：短期間のリサーチだったが、生徒が明確な目標を持って自己学習の時間を伸ばし、精一杯取り組んでくれたことは何より成果だったように思う。リサーチを始めた当初は、初めての試みであったし、仮説を手探りでさがす状態だった。また、対象生徒が 1 名で家庭基盤の弱さや不登校を経験するなど身体的な障害面だけでなく様々な課題を抱えた生徒であったので、英検 3 級という目標は高く無理があるのではないかと話し合いも続けた。その中で英検 3 級は、基本的な英語を理解し特に口頭で表現できることを重視しているため、それに向けての取り組みはスピーキング力向上に効果があるという方向にまとまった。そして結局、英検 3 級の資格は進路に向けてプラスになるという本人の意見を尊重する形となった。こうして、日々の実践を重ねていくうちに、いろいろなところで生徒の可能性と頑張りを発見し力づけられる場面があった。これから 2 次試験突破に向けて、文法面や速読力の強化を図りスピーキングへとつなげていく手立てを探ること

が今後の課題の1つと考えられるが、様々な発見に励まされて授業をよりよいものにしていきたい。